



◇ 基本の使い方

単一視覚障害の点字使用児童の国語で使用。

全盲児が指でなぞって形を確かめられるように立体コピーで漢字を書いておく。音読み・訓読みの他、主な熟語を取り上げ、漢字の持つ意味をイメージを持つようにする。パソコンを使っての学習に備えて、訓読みには送りがなをつけるようにする。音声パソコンで入力するときに必要なよみかたも提示する。

繰り返し学習できるようカード形式にする。タックシールを使うことで弱視の児童も読めるようにし、何度も触れるよう強度を高める。

◇指導のねらい

点字使用の児童も漢字について学び、パソコン等を使って墨字使用者とのコミュニケーションがとれるようにしたい。

漢字の形そのものを覚えるということではなく、漢字の意味や正しい使い方を学習できるようにしたい。より実践的な力にするため、音声パソコンの入力データも付け加えておく。

◇指導の評価

全盲・弱視混合クラスの国語で使用した。点字使用の児童も漢字に対して大変興味があり、使い方を覚えたいという意欲が見られた。

ただし、「冷房」を「冷防」と書くと間違えている等、墨字使用者には気づかないミスが生じる可能性は残ってしまった。

漢字を学ぶことで、音声パソコンによる入力や文章作成が可能になり、晴眼者とのコミュニケーションができるばかりでなく、将来的な自立の力にもつながってくると感じる。